

【問い合わせ先】秘書課シティプロモーション係

報道機関各位

電話 0276-47-5101

館林市初のショートドラマ『はい、館林市役所です。』がSNSで大きな反響！公開2週間で関連投稿の総閲覧数は50万回に迫る勢い、公式Instagramフォロワー数は約4倍に急増。

館林市が制作し、3月6日(金)に公開したショートドラマ『はい、館林市役所です。』が、公開から約2週間でSNSを中心に大きな反響を呼んでいます。

現時点での進捗状況および視聴者からの反応についてお知らせいたします。



本編はこちら

1. 関連コンテンツの総閲覧数は50万回に迫る勢い

YouTubeの本編再生回数(22,693回/3月25日時点)に加え、InstagramやX(旧Twitter)での告知・予告動画、キャストコメントなどの総閲覧数が大幅に伸びており、プラットフォームを横断した総リーチ数は着実に拡大しています。



[たてプロ【公式】\(Instagram\)](#)

告知・予告・キャストコメント等閲覧数：総計379,599回(3月25日時点)



[館林市公式動画チャンネル\(YouTube\)](#)

本編・予告・キャストコメント等再生回数：総計38,468回(3月25日時点)



[館林市公式X](#)

告知ポスト等閲覧数：総計76,401回(3月25日時点)

総閲覧数：494,468回

2. 市公式Instagramのフォロワー数が約4倍に急増

今回のドラマ公開を機に、情報発信の基盤となるSNSアカウントが大幅に強化されました。特にInstagramでは、告知解禁前の446人(2月1日時点)から、現在は1,806人(3月25日時点)と約4倍に増加しており、一過性の視聴にとどまらない「館林市のファン」の獲得につながっています。

3. 「シビックプライド」の醸成と「来訪意欲」の向上

視聴者からは、制作のねらいである10代から40代の層を中心に、以下のような好意的なコメントが多数寄せられています。

- ◆「タヌキの茶釜に入れられたカップの小指…そんなお土産あったらビックリ！館林、今一番行きたい場所です！多々良沼も行ってみたいな〜」
- ◆「館林市でこんな楽しい動画を作っていたんですね。すごく楽しく世界観が独特で、最後まで視聴してしまいました。」
- ◆「めちゃくちゃいい感じ🌈なんかほんわかした気持ちになりました」
- ◆「わお😄見慣れた景色が沢山🍀嬉しすぎる❤️ありがとうございます🌸」
- ◆「おお…。館林市役所、行ったことあるー😄。」
- ◆「知ってる場所、人だらけで楽しい♪ストーリーもほのぼの系でいいですね。続編が見たいです！次は、つつじヶ岡公園と近藤沼ですかね。」

これらの反応は、市民の皆様のシビックプライド醸成、および市外の方々の認知度向上という、本ドラマ制作の目的が達成されつつあることを示しています。

4. 今後の展開：映画祭への挑戦と地域連携

本プロジェクトは公開して終わりではなく、さらなる話題化と地域活性化に向けて以下の取り組みを継続します。

◆映画祭への応募

「ショートショート フィルムフェスティバル & アジア2026」へのエントリーを予定。

◆コラボ商品の発売

撮影にご協力いただいた(株)館林うどんで、ドラマで登場した「カップうどん」のメニュー化を検討。

◆継続的な SNS 発信

関連したコンテンツを継続的に発信し、さらなる認知拡大を目指します。

館林市は、本ドラマをきっかけに、関係人口・定住人口の創出に向けたシティプロモーションをより一層加速させてまいります。

【多々良沼でカッパ目撃？】群馬県館林市が初のショートドラマ『はい、館林市役所です。』を3月6日(金)より公開。古舘佑太郎×岡本夏美×博報堂プロダクツの豪華タッグ、エキストラなど計100人が参加。

民間プロフェッショナル登用が生んだ地方創生の新形。日本遺産「里沼」や「分福茶釜」の舞台で、市役所職員が奮闘する“ほのぼのコメディ”が誕生。



群馬県館林市では、2026年3月6日(金)17時より、市の魅力を物語で伝える初のショートドラマ『はい、館林市役所です。』を公式 YouTube チャンネルで公開しました。本作は、民間から登用された広報専門官のネットワークを活かし、株式会社博報堂プロダクツの吉田真也監督をはじめとするプロチーム、エキストラなど計100名が協力して制作。都心から1時間の「水と緑のまち」の魅力を、カッパ騒動を巡るコメディに乗せて全国へ発信します。

■制作趣旨・背景

移住希望地ランキングで2年連続全国1位に選ばれた群馬県(※)。その群馬県の中でも東京に一番近い市が「館林市」です。

その館林市では市の魅力をより広く発信し、知名度の向上と交流人口の拡大に繋げるため、動画を活用した情報発信を強化しています。本市では2025年4月に秘書課広聴広報係をシティプロモーション係に改称したほか、国の制度である地方創生人材支援制度を活用し、株式会社博報堂から広報専門官を登用するなど、市のPRに力を入れてきました。今回制作したショートドラマは、その取り組みの一環として、館林の魅力を物語として伝えるものです。

監督・企画は、国際短編映画祭ショートショートフィルムフェスティバルなどで受賞歴を飾る吉田真也さん(株式会社博報堂プロダクツ)です。吉田さんは群馬県邑楽町出身であり、地域貢献への思いをきっかけに、吉田さん自ら本市にお声がけいただいたことで、同年10月から制作がスタートしました。

※公益社団法人ふるさと回帰・移住交流推進機構

館林市・群馬県にゆかりのあるかたが出演

古館佑太郎さんは、フリーアナウンサーの古館伊知郎さんのご子息であり、幼少期、ご家族が懇意にしていた市内寺院に遊びに来られていました。佑太郎さんは、2024年11月に市内で開催された日本遺産「里沼」をテーマとした滞在制作「アートツーリズム事業」への参加、2025年つつじまつりで行われた特別ライブなどを経て、「館林は第二のふるさと」と話します。現在は「たてばやし応援隊」として館林の魅力を発信していただいています。

岡本夏美さんは、群馬県に祖父母のご実家があり幼少期から足を運んでいます。

その他、群馬県邑楽町出身で群馬県立館林高等学校卒業の大竹直さん、群馬県立館林女子高等学校卒業の小室ゆらさんが出演します。

脚本は、数々の脚本を手掛け、映画祭での受賞を飾る群馬県高崎市出身の山崎佐保子さんです。

総勢約100人にご協力いただいた「館林愛」・「群馬愛」が溢れる作品

2025年12月に館林市役所庁舎内、多々良沼、茂林寺などで撮影を行い、主要キャストのほか、市職員のエキストラ36名、一般エキストラ26名、制作チーム30名の総勢約100名の皆様のご協力により作り上げられました。本作品は、館林市や群馬県にゆかりのあるキャストや多くのエキストラのかたにご出演いただき、「館林愛」・「群馬愛」が詰まった作品に仕上がっています。

■ショートドラマ『はい、館林市役所です。』

館林市役所に届いた「多々良沼でのカップ目撃情報」の1通のメールが巻き起こす、ほのぼのとしたコメディドラマ

館林市役所を舞台に、日本遺産「里沼」の一つである多々良沼や、童話「分福茶釜」発祥の地である茂林寺など、館林の美しい自然が登場し、館林の風景やまちの空気感を感じられる内容となっています。

古館さん、岡本さんらは“シティプロモーション系の市職員”という設定。撮影も実在する同僚のデスクで行われました。



■キャスト

古館佑太郎（俳優・ミュージシャン）

高校在学中にバンド『The SALOVERS』を結成。NHK連続テレビ小説『ひよっこ』、NHK大河ドラマ『光る君へ』、日本テレビ土曜ドラマ『良いこと、悪いこと』、TBS火曜ドラマ『未来のムスコ』等に出演。令和6年、本市のアートプロジェクト『ART & CULTURE LOCAL lab.KAI@TATEBAYASHI』に参加。『カマンズに飛ばされて 旅嫌いな僕のアジア10カ国激闘日記』（幻冬舎刊）を出版。



岡本夏美(女優・モデル)

『non-no』専属モデル。主な出演作は NHK によるドラマ『きれいのくに』、連続テレビ小説『おむすび』、舞台『ピロクシー・ブルース』。最新作は劇場版『教場 Reunion/Requiem』、舞台『黒百合』。群馬県は祖父母の実家があり、幼少期から何度も足を運んでいる親しみのある地。



石井歩睦(俳優)

ニチエンプロダクション所属。今作が初のドラマ出演となる。



大竹直(俳優)

群馬県邑楽町出身。群馬県立館林高等学校卒業。劇団「青年団」所属。映画『ほとりの朔子』、『本気のしるし』、NHK 大河ドラマ『青天を衝け』、〈ぐんま次世代クリエイターコンペ 2024 最優秀賞作品〉短編映画『ものがたりの予感』等出演。県立館林美術館にて〈たてびシアター2025〉ひとり芝居『春に鳴く鳥』を上演。



小室ゆら(女優)

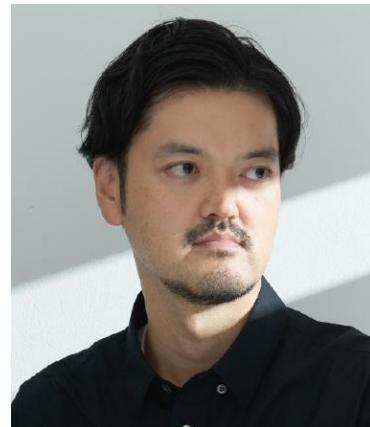
群馬県立館林女子高等学校卒業。TBS『王様のブランチ』、映画『瞬間少女』『JK エレジー』等に出演。



■スタッフ

吉田真也(監督・企画)

群馬県邑楽町出身。株式会社博報堂プロダクツ所属。ディレクター・プランナーとして主に TVCM・WEB 動画・SNS 動画制作に携わる。監督を務めた Hulu オリジナルドラマ『THE LIMIT / タクシーの女』はアジア最大級の国際短編映画祭ショートショートフィルムフェスティバル&アジア 2022 ジャパン部門の優秀賞を受賞。第 95 回アカデミー賞短編部門のノミネート候補作となる。地元に貢献したい想いで本企画を計画した。



山崎佐保子(脚本)

群馬県高崎市出身。日本映画学校で天願大介、斎藤久志、荒井晴彦に師事し、脚本を学ぶ。『青緑色のスキミーズ』でシナリオ作家協会主催・新人シナリオコンクール佳作、『あんぽんたんといカレポンチキ』で第 17 回函館港イルミネーション映画祭シナリオ大賞グランプリ、中編『めぐる』で伊参スタジオ映画祭シナリオ大賞 2014 審査員奨励賞を受賞。その他の脚本作に、『おじいちゃん、死んじゃったって。』『愛に乱暴』『カレーの唄。』『神木隆之介の撮休』『私があなたという理由』など。



村地洋祐(プロデューサー)

株式会社博報堂プロダクツ所属。プロデューサー。映像を軸に、CM/映画/ドラマ/MV/グラフィック/アーティストブランディングなど、多岐に渡りプロデュースをしている。ゆうばり国際ファンタスティック映画祭 2022 では、短編映画『ただの夏の話』がグランプリを受賞。MTV Video Music Awards Japan2025 では、『NEW KAWAII/FRUITS ZIPPER』が Best Breakthrough Video を受賞。2026年には JAC AWARD にてプロデューサー部門のメダリストに選出されている。



槇憲治(撮影)

フリーランス。『黒四角』『続・深夜食堂』『海辺の生と死』『光』『リバーズ・エッジ』『日日は好日』『母を亡くした時、僕は遺骨を食べたいと思った。』『劇場』『破壊の日』『星の子』『戦慄せしめよ』『楓』など。



■協力

群馬県立多々良沼公園、茂林寺、日向漁業協同組合、福陶庵、館林市「日本遺産」推進協議会、百年小麦ブランド化委員会、麺のまち「うどんの里館林」振興会、株式会社館林うどん、館林菓子工業組合、和菓子処 田月堂、Menkoi ガールズ(ぐんま特使・館林市ふるさと応援大使)、KAERU、TATEBAYASHI HILLS HOTEL、館林市観光協会、館林フィルムコミッション、エキストラの皆さん

